

玉木議員要望項目一覧

令和8年度当初分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>①鳥取大学を核とした人材育成・産業創出・国際連携の戦略的推進について 人口減少や若者流出が続く中、鳥取県が持続的に発展していくためには、人材育成と産業創出を一体で進める戦略が不可欠であると考えます。特に、県内最大の知的・人的資源である鳥取大学に対する期待は極めて大きく、同大学が進める地域未来共創センター(Tottori Uni Q)を中心とした人材育成、アントレプレナーシップ教育、スタートアップ・起業家育成、さらには国際共同研究や国の大型研究開発事業への挑戦は、鳥取から新たな価値と産業を生み出す重要な取組であります。</p> <p>こうした大学の動きを、個別事業として支援するにとどまらず、県が主体となって政策の中核に位置付け、人材育成から起業、雇用創出、世界への展開までを一貫して後押しする体制づくりが必要です。</p> <p>については、鳥取大学との連携を、教育・研究・産業・国際連携を包含した包括的な枠組みとして再整理し、県が率先して関与することで、「学び、挑戦し、働き、暮らし続けられる鳥取」を実現する人材循環モデルの構築を要望します。</p>	<p>令和7年度に鳥取大学に設置された地域未来共創センターにおいては、鳥取大学・鳥取県連携推進会議を設置し、地域を支える人材の育成や产学研連携の取組を広く進めているところである。</p> <p>併せて、鳥取大学には、「令和の革新」県民会議に参画いただき、地場産業振興・交通維持・空き家対策等の地域課題解決に向けて、県・市町村と一緒にになって取り組んでいただいている。</p> <p>新たに、地域未来戦略として、令和8年5月頃を目途に策定する予定の鳥取県の「地域産業成長プラン」の取組を進めていく中で、鳥取大学をはじめとする高等教育機関とも密接に連携し、本県にとって中核となる人材育成・確保支援を進めてまいりたい。</p>
<p>②鳥取大学生を地域の担い手として活かす交通政策・生活動線の再設計について 若者、とりわけ鳥取大学の学生が日常的に地域と関わることは、中心市街地の活性化や人手不足対策、将来的な定住促進に直結する重要な要素であると考えます。しかし現状では、移動コストや交通利便性が学生の行動範囲を制約し、大学と街、産業と人材が十分につながっていない状況が見受けられます。</p> <p>交通政策は単なる移動手段の確保ではなく、人口政策・産業政策の基盤として再定義すべき段階にあります。</p> <p>については、鳥取大学前と鳥取駅周辺を軸とした動線について、JRや路線バスとの連携による学生向け施策や実証的取組、市内循環バスや最終便時間の見直し等を検討し、学生が費用面や運行本数・時間の不安なく中心市街地に出て、アルバイトや地域活動に参加できる環境づくりを進めることを要望します。</p>	<p>現在、鳥取市において、今後のまちづくりや中心市街地活性化対策の観点も踏まえながら鳥取駅周辺再整備の検討が行われているところであり、今後鳥取市の考えも伺いながら、公共交通の需給状況の見通しも考慮の上、ダイヤ見直し等についてJRやバス事業者と協議していく。</p> <p>なお、令和7年3月にJR鳥取駅ー倉吉駅間に交通系ICが導入され、また令和8年3月には県内全ての路線バスに交通系ICが導入されることを受け、県では学生モニターを募り、大学の長期休業期間中に交通系ICを使って公共交通を利用し、県内の新たな魅力を発見していただくとともに、ワークショップを通じて公共交通に関する学生の意見を聴く事業を令和8年度当初予算案において検討している。</p> <p>・公共交通活性化推進事業（公共交通利用促進事業） 7,500千円</p>